

戦後80年特集

～未来につなぐ平和への誓い～



今年（2025年）は終戦から80年になります。
唐津市在住の戦没者遺族の人たちに子どもたちが知らない戦争の記憶を語ってもらいました。
【圖】福祉総務課（☎72-9178）

わたしの戦争の記憶

私の父は昭和19（1944）年に出征し、そのまま帰らぬ人となりました。見送った駅での姿が、父との最後の記憶です。母は、幼い私たち5人の子を抱え、慣れない農作業に追われながら懸命に生活を支えてくれました。私も子どもながら遊ぶことなく、毎日を家族のために働いて過ごしました。



当時の農作業の様子

あの戦争では、多くの家庭が同じような悲しみと苦しみを経験しました。戦争がもたらしたのは命の喪失だけでなく、家族の生活そのものを変えてしまう深い傷でした。

今年で戦後80年。戦争の記憶は薄れつつありますが、だからこそ、私たち遺族が語り継がなければならないと思います。戦争の悲惨さを知ることが、平和の尊さを知る第一歩です。これからも、二度とあのような悲しみを繰り返さないために、日本の平和が続くことを、心から願っています。



浜玉町遺族会会長
荒田 義毅さん

地域の慰霊碑

戦没者の慰霊碑などは市内に83か所あり、相知地区には17か所あります。

肥前久保駅、相知駅、天徳の丘運動公園、佐里駅、相知護国社（熊野神社境内）、社稷一戎衣（青幡神社境内）、招魂碑（彦山神社境内）、招魂碑（久保公民館横）、日露戦役記念碑（相知町平山）



社稷一戎衣
（青幡神社境内）



相知護国社（熊野神社境内）



日露戦役記念碑
（相知町平山）

先の大戦で尊い命を捧げられた人々に深く哀悼の意を表します。私たち遺族は、命の重みと平和の尊さを語り継ぐ責任を胸に、未来への懸け橋となる決意を新たにしています。今年10月8日は、佐賀県でも戦没者追悼式が開催されます。この場を通じ、過去を忘れず平和を守る意志を若い世代と共有し、戦争のない未来へつながることを心から願っています。
唐津市遺族連合会会長 惠藤 元文さん

後世に語り継ぐ「語り部」の活動

戦後80年を迎え、戦争を知らない世代が増える中、平和の尊さを伝える「語り部」の活動はますます重要になっていきます。語り部は、自らの戦争体験や被爆体験を通して、戦争の悲惨さや命の重み、そして平和の尊さを語り続けてきました。その言葉には、教科書では学べない現実の重みがあります。しかし、語り部の多くが高齢となり、直接話を聞ける機会は年々減っています。



1分間の黙とうをささげましょう

戦没者や原爆死没者を追悼し、核兵器廃絶や世界恒久平和の実現を祈念して、サイレンを1分間鳴らします。

- 広島原爆の日 8月6日（水） 8:15
- 長崎原爆の日 8月9日（土） 11:02
- 終戦の日 8月15日（金） 正午



【圖】総務課（☎72-9113）

減っています。そのため、佐賀県遺族会では「平和の語り部」の派遣事業を実施している。歴史の中で埋もれかけている戦争を今一度、平和のために知って欲しいとの願いを込め、佐賀県内の小学校や中学校などで活動しています。平和は当たり前ではなく、多くの犠牲の上に築かれたものです。語り部の声に耳を傾け、戦争の記憶を風化させない努力を続けることが、私たちの使命であると考えています。



私は、平成14年に名護屋地区遺族会長、平成21年からは市遺族連合会会長と佐賀県遺族副会長を歴任し、これまで遺族会員の皆さまとともに歩み、多くの思い出と貴重な経験を重ねてきました。就任当初は会員の融和を第一に考えていましたが、戦後生まれの人たちが多くなり戦争の記憶も風化を感じるようになってきました。これからの遺族会のあり方を考えると女性部や、青年部に大きな役割を担っていただくことになるでしょう。また、一方で遺族会の継続には市からの助成がなければ会員の総意で市に陳情した

遺族連合会

20年の思い出



唐津市遺族連合会前会長
廣田 國重さん

思い出もあります。市遺族連合会の20年を振り返ると、戦争の記憶を忘れないために九州各県をはじめ各地の戦争遺構を訪れ巡り、慰霊と交流を深めてきました。また、フイリピンでの追悼式では遺族を代表して天皇皇后両陛下をお迎えできたことなど、思い出は尽きません。これまでの活動は、皆様のご支援とご協力あってのものとして深く感謝しています。

